

特集 ■ 精神障害のリハビリテーション

近年、リハビリテーションの対象は、身体障害のみならず、精神的側面へ、その範囲が広がってきました。そのようななか、今後のリハビリテーション医学・医療は、精神障害の予防や治療に積極的に関わって行く必要があります。今回の特集では、精神障害のリハビリテーションに関する各分野の取り組み、今後の課題、展望などについて、各分野の先生方にご解説いただきました。

精神科リハビリテーションの過去、現在、未来、国内外の動向

—その背景にある日本の精神科医療の事情も含めて— (先崎 章氏, 611 頁)

持続性の重い精神障害をもつ人々が、最小限の専門家の支援にて、地域で生活し学び働くために必要な、心理的・社会的な技能を習得させることを目標にリハビリテーションが行われる。しかし、精神科リハビリテーションの理論を強調しなければならない理由や経緯は、その背景にあるこれまでの日本の精神科医療（活動）や政策を知らないとなんとなく理解できない。日本の精神科医療の歴史を踏まえ、国内外の動向について解説している。

統合失調症とリハビリテーション (古川俊一氏ら, 623 頁)

リハビリテーションは全人的復権であるという指摘は、統合失調症をもつ方のリハビリテーションにおいても同様である。わが国の精神科病床数は世界中の全精神科病床数の 2 割にも達すると言われている。リハビリテーションは病院中心のものがイメージされやすい。本稿では、病院外で行う統合失調症のリハビリテーションを紹介し、筆者が取り組んできたデイケアを中心としたリハビリテーションについて概説している。

うつ病のリハビリテーションと復職支援 (廣 尚典氏, 631 頁)

身体疾患にせよ精神疾患にせよ、健康問題によって休業した労働者の目指すべきところは、通常職場復帰であろう。メンタルヘルス不調を有する労働者が順調に職場復帰するために、リハビリテーションは重要な要素であるが、その質を高めるだけで、良好な結果がもたらされるわけでははい。職場復帰には、本人の機能回復以外に数多くの因子が影響を及ぼすためである。本稿では、主題を医学的リハビリテーションから職場復帰全体に広げ、その現状と課題について論じている。

森田療法における神経症（不安障害）の治療とリハビリテーション (谷井一夫氏ら, 637 頁)

筆者らは東京慈恵会医科大学森田療法センターに勤務しており、神経症（不安障害）の治療に携わることが多く、森田療法は治療のなかでリハビリテーションの要素が強いことに気づかされると述べている。本稿では、森田療法の概説を述べた後、入院症例を提示し、森田療法における神経症の治療・リハビリテーションについて考察している。

アルコール依存症のリハビリテーション (木村 充氏ら, 643 頁)

アルコール依存症は、習慣的な飲酒によって、飲酒への強い渴望が生じ、飲酒のコントロールが失われた状態であり、飲酒する人なら誰でも発病する可能性のある疾患である。本稿では、アルコール依存症の診断、治療、リハビリテーションプログラムの変遷や目的、介入などについて解説している。

書 評

《脳とソーシャル》脳とアート—感覚と表現の脳科学 (宇高不可思) …665 心電図を見るとドキドキする人のためのモニター心電図レッスン (高橋哲也) …677

ニュース

障害ある学生 15%増、入試や授業支援拡充—大学・短大など…621 「ノーマライゼーション・障害者の福祉」5 月号特集目次…653 道交法、一定の病氣申告しないと罰則—改正案、参院通過…676 「車いす利用者も客」、銭湯の入浴拒否に訴え…684

お知らせ

第 14 回日本リハビリテーション心理研究会…629 第 16 回臨床筋電図・電気診断学入門講習会…642 第 26 回教育研究大会・教員研修会…647 第 3 回関東地区小児整形外科ペーシックコース講習会…684